

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 城山 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | | |
|------|----|---|
| ① 国語 | 90 | 人 |
| ② 数学 | 90 | 人 |
| ③ 英語 | 90 | 人 |

5 留意事項

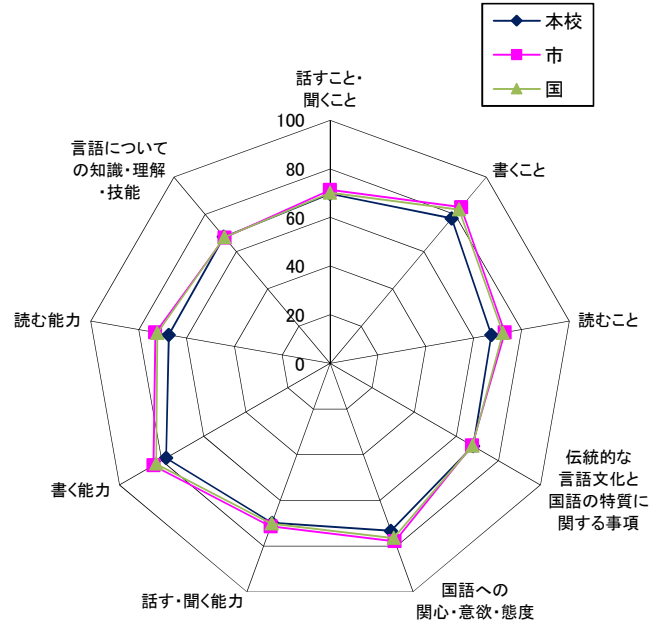
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	69.8	71.4	70.2
	書くこと	77.9	83.9	82.6
	読むこと	67.4	73.0	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.0	67.5	67.7
観点	国語への関心・意欲・態度	73.3	77.9	76.5
	話す・聞く能力	69.8	71.4	70.2
	書く能力	77.9	83.9	82.6
	読む能力	67.4	73.0	72.2
	言語についての知識・理解・技能	68.0	67.5	67.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

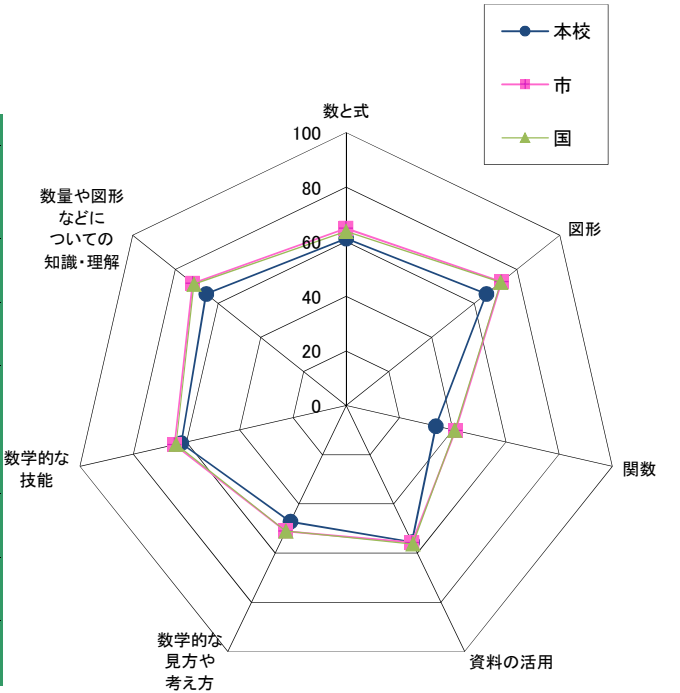
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話し合いの話題や方向を捉える」や「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」では、県や全国の平均を3～4ポイント上回っている。 ●「相手に分かりやすく伝わる表現について理解する」は、県や全国の平均を8ポイントほど下回っている。	・国語や道徳の授業、その他の授業でグループごとの話し合い活動を多く設けている。その結果、成果が得られていると考えられる。この結果を各教科等担当者にも伝え、今後も話し合い活動を有効に授業に取り入れていくよう進めていきたい。 ・生徒の発表は、言葉足らずのことが多い。教師側から、分かりづらい表現に対して質問するなどし、発表者の考えが明確に伝わるよう支援していく。その繰り返しで、相手に伝わりやすい表現を理解し、身に付けさせていくようにする。
書くこと	○書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する」では、県や全国の平均を1ポイント上回っている。 ●「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」では、県や全国の平均を10～11ポイント下回っている。	・提示してある文章の検討や書き加える言葉を選ぶまでの力については結果となった。 ・しかし、自分の考えをもち、それを順序だてて構成していくことが苦手な生徒が多い傾向にある。ある事柄について、説明を加えたり、自分の考えや意見をもち、それを書いたり、発表し、友達の考えを聞いたりするという活動を増やしていくようにする。
読むこと	●「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ」では、県や全国の平均を4～5ポイント下回っている。 ●「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」は、県や全国の平均を6～7ポイント下回っている。 ●「文章(ここでは短歌)に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ」では3～4ポイント下回っている。	・説明的文章を読むにあたって、文章の構成や展開、また、そこで発せられている情報について、視覚的にも捉えられるよう、板書やプリント作成を工夫する。また、読み取ったことから、自分の考えをもち、そう思った理由をノートに書いたり発表したりすることを今まで以上に行っていくようにする。 ・詩歌や俳句などをよむ際、自分の感想が深められるよう、そこに表現されている意味や情景、作者の心情などについての解説を丁寧に行っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「封筒の書き方を理解して書く」では、県、全国平均より、4ポイント上回っている。 ●「話の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する」は、県、全国平均より3～4ポイント下回っている。	・2年の立志の際、保護者の方に手紙を封書で送るという活動を行っているが、その活動あつての結果と考えられる。 ・文法は、解説をした後、ワークや補助プリントの練習問題に取り組むということをしているが、今後さらに分かりやすい解説の工夫をし、練習問題に取り組む時間も増やしていきたい。

宇都宮市立城山中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	61.2	64.9	63.8
	図形	65.7	72.8	72.4
	関数	33.7	41.1	40.8
	資料の活用	55.5	55.7	56.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	47.2	51.1	51.0
	数学的な技能	62.0	64.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	65.6	71.9	71.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

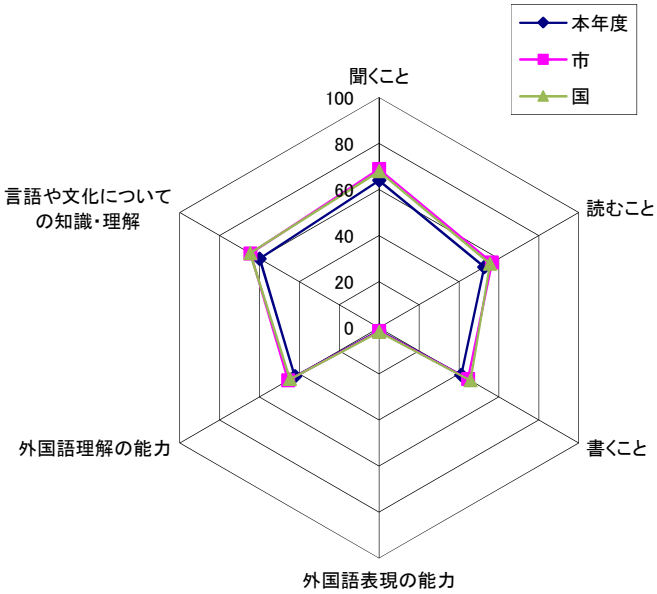
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○総合的・発展的に考察する証明問題では、全国平均を0.2ポイント上回った。 ●県や全国と比べて、正答率が下回っている。四則計算の結果を考える問題では、全国平均正答率を4.1ポイント下回った。	・チームティーチングを有効活用し、個別指導を丁寧に行って、計算問題の理解を促す。 ・計算の過程を大切にし、1つ1つの式の意味を考えさせながら指導にあたっていく。
図形	●図形分野は全体を通して、県や全国平均を大きく下回っている。 ●四角形から、辺の長さが等しいことを証明する問題については、44.2%と非常に低い。	・全体的に、県や全国平均正答率を下回っているため、基礎問題をもっと徹底して指導をしていく必要がある。 ・証明に関する問題で、正答率が低かった。正解するには、必要な定理や考え方を整理する必要がある。その確認として、日頃の授業で周りに説明するという活動を多く取り入れていく。
関数	●関数全般において、県や全国と比べて低くなっている。 ●物事の関係を表すグラフを利用して考える問題においては、正答率が20.9%と低い。県や全国と比べても13.8%も下回っている。	・関数分野の基礎内容が理解されていない。基礎・基本を1つ1つ丁寧に指導していく。 ・関数の活用の問題では、持っている知識を、どこで、どのように使っていくのかということを重点的に指導していく。
資料の活用	○問題解決のために代表値のどれを用いるかという問題では、全国平均生徒率を8ポイント上回っている。 ●資料の傾向を的確にとらえる問題では、県や全国平均正答率を下回っている。	・基本的な考え方は身に付いていて、範囲や確率の問題もできていたため、それを表などに表す方法や日常生活に生かす考え方を伝え、定着させていきたい。

宇都宮市立城山中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	聞くこと	64.0	68.9	67.9
	話すこと			
	読むこと	52.7	56.5	55.6
	書くこと	41.1	44.6	45.8
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力	1.2	1.5	1.8
	外国語理解の能力	42.2	45.6	44.7
	言語や文化についての知識・理解	59.9	64.5	64.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	この領域の平均正答率は、国の平均正答率よりも低い。 ○絵に関する聞き取りについては、情報を正確に聞くことができています。 ●会話を聞いて情報を正確に聞き取ることにについては、正答率が市や国の平均より10ポイントほど低くなっている。	・会話の要点を正確に聞き取ることを、ALTとの授業を通して指導していく。 ・聞き取った内容のメモを取るなどして、正確に情報をつかむように指導していく。
話すこと		
読むこと	この領域の平均正答率は、国の平均正答率よりも低い。 ○簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取ることは比較的できている。 ●まとまりのある文を読んで理解することについては、市や国の平均正答率よりも10ポイント近く低い。	・長文を嫌がることなく読めるように、日頃から簡単な文章に触れて慣れるようにしていく。 ・ワークや宿題プリントなどで、何度も練習問題をこなすことによって文法の理解と定着を図っていく。
書くこと	この領域の平均正答率は、国の平均正答率よりも低い。 ○文の中で、接続詞などの適切な語句を用いることができるについては、市より4ポイント、国より5ポイント高い。 ●与えられた情報に基づいて正確に文を書くことについては、平均より低い。	・英単語をしっかりと書くために、単語テスト等を通して指導していく。 ・既習事項の文法を使って、様々な場面で自分の意見をしっかりと表現できるように指導していく。

宇都宮市立城山中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか」「学校の規則を守っていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」などの肯定的回答割合はいずれも全国や栃木県を上回っており、かつ80%を超えるなど大変高い値になっている。善悪の区別もつくなど規範意識や社会貢献の意識が非常に高い。

○「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」などの肯定的回答割合は84%~94%ととても高く、全国や栃木県を上回っている。成功体験も多く、自己肯定感も高い。それらが将来への夢や希望につながっている様子がわかる。社会体験学習等の進路学習の成果であると考えられる。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的回答割合は91%、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の肯定的回答割合は92%といずれも高い割合であり、全国や栃木県を上回っている。教師のかかわりについても素直に受け止めていることがわかる。

・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的な回答割合は62%と全国を12ポイント、栃木県を4ポイント上回っているものの「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について2時間以上と答えている割合は全国や栃木県の割合を下回っている。1時間以上2時間の割合が多いのが特徴である。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」の項目では「全くしない」「10分より少ない」の割合が41%と全国や栃木県の割合より多かった。半面、「読書は好きですか」の肯定的な回答割合は、79%と全国や栃木県より高く、読書を読む傾向が見られる。読書の習慣については二極化が進んでいるため、今後も朝の読書や図書紹介などの充実を図っていききたい。

○「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」の肯定的な回答割合は71%。全国を10ポイント、栃木県を5ポイント上回っている。総合的な学習の時間で行う「ふるさと学習」や「あったか活動」など地域を活かした学習で大谷地区を題材とした学習を繰り返していることや、大谷資料館、多気不動尊、大谷寺、ジャパンカップサイクルロードレースなど地域の特性も大きな要因である。

●「1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」の肯定的な回答割合は8%。栃木県の28%、全国の31%と比較しても大きく落ち込んでいる。ICTを授業で活用することでより分かりやすい授業を展開する必要がある。デジタル教科書、実物提示機の使用。さらにはまとめを行う学習の中で、プレゼンテーションソフト等の活用を心掛けていきたい。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」77%と全国、栃木県を大きく上回っている。「ふるさと学習」「あったか活動」に代表される地域探索学習や奉仕活動などへの取組が充実しているためだと考えられる。

宇都宮市立城山中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習目標の明確化と定着のための振り返りの充実、指導法や授業形態の工夫による学力の向上	・「本時の目標」の掲示カードを各教室に用意して授業開始で学習目標を確認、最後に振り返りを行うことで学力定着の充実を図る。 ・「校内公開授業週間」によりお互いの授業参観を行い、授業力の向上を図る。その時に「目標の掲示の仕方」、「忘れ物をなくす工夫」など視点を決めて参観する。	・授業がよくわかるかといった問いに対しては、肯定的な回答率が高い。特に数学では77.7%と良い結果が出ている。 ・どの授業もよくわかるという回答率は低くはないのだが、家での学習に関しては「あまりしていない」や「していない」といった回答が5割近く見られる。家庭学習の習慣が定着していない。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語や英語の調査で「書くこと」についての問いに対する回答率が低いことが見られ、普段の授業からも、じっくり考えて、論理的に自分の考えをまとめて書くことなど、大変なことを避けようとする生徒が多い。	本校の生徒全体に共通する課題を把握し、共通する課題を絞り2学期から全校体制で実行している。	各教科で話し合い、その後全体で出てきた課題について共通理解を図った。特に書くことの指導に関しては、授業の最初の小テスト、考えたことやわかったことを書いて表現する場の設定の仕方を工夫していく。